

経済連情報

4

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2025. 4
● NO.1327

JA静岡経済連 3か年計画の策定について

Main topics

JA静岡経済連3か年計画の策定について……01

topics&news

花の都しずおかをPR

第40回静岡県花の展覧会 ……………04

バレンタインに花を贈ろう

フラワーバレンタインイベントを開催 ……………04

県産みかんの高品質生産のために

令和7年静岡県柑橘生産者大会 ……………05

県産和栗を世界へ

和栗協議会発足式を開催 ……………05

県産農産物の高品質生産へ

高温対策栽培技術講演会を開催 ……………06

令和6年産米食味ランキング発表

本県産「にこまる」、「きぬむすめ」が「特A」を獲得 ……06

県産米の流通体制強化へ

第5回静岡県産米麦流通連絡協議会

および共同計算運営委員会を開催 ……………06

最新研究紹介

既設イノシシ用電気柵を活用したシカにも

有効な侵入防止柵 ……………07

お知らせ

静岡県農業振興基金協会からご案内 ……09

定年・選択定年退職者のご紹介 ……………10

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ……10



▲第40回静岡県花の展覧会



▲令和7年静岡県柑橘生産者大会



J A 静岡経済連

3 年計画の策定について

I はじめに

本会は、J A 静岡経済連3 年計画（令和7 年度～9 年度）を策定しました。2 年計画からの諸課題への対応に加え、食料・農業・農村基本法の改正、SDGs やみどりの食料システム法など、社会情勢・環境変化等への新たな対応が求められています。このことを踏まえ、本会は連合会としての県域機能を更に強化するとともに、J A や県行政・指導機

関、取引先等との連携を強化し、相乗効果による農業諸課題へ対応と新たな事業展開により、組織ビジョンをベースに、本会基本理念である「持続可能な静岡県農業の実現」を目指します（図1）。

II 基本目標・基本戦略

J A 静岡経済連3 年計画では、2 つの基本目標と6 つの戦略を掲げています。内容は図2 のとおり。

〈戦略1〉J A 域を超えた事業連携・協調による生産基盤の強化

1. J A、経済連の連携・協調による広域拠点施設の整備と運営支援
 - ①生産者の労力軽減と栽培拡大に資する「J A 静岡青果物広域パッキングセンター」の事業運営体制の構築と事業運営
 - ②静岡県食肉センター再編整備事業の円滑運営に向けた体制整備
 - ③A ー等の先端技術導入した柑橘選果場の整備・運営支援

図1

【J A 静岡経済連のめざす姿】

本会は、組織ビジョンをベースに基本理念である「持続可能な静岡県農業の実現」をめざす姿として取り組みます。

基本理念

私たち J A 静岡経済連は、組合員の視点に立ち、J A との一体的事業展開を図り、農業の持つ多面的機能を最大限に発揮し、環境に配慮した静岡県農業の持続的発展と社会的貢献を目指します。

J A 静岡経済連組織ビジョン

1. 静岡県農業の発展のため、役職員が、組織一体で結果を求め、新たな事業展開に恐れず挑戦する組織。
2. 役職員が共に、個人・組織の成長を感じながら、自律的に充実した事業展開が図れる組織。
3. 世の中の価値観と組織の価値観を調和させ、関係先に対し、信頼される事業展開が図れる組織。

図2

生産者の <u>生産基盤の強化</u> に資する内容	
基本目標1	産地の維持・拡大に向けた生産基盤の強化（大綱共通）
基本戦略1	組合員の農を支える事業活動（大綱共通）
<戦略1>	J A 域を超えた事業連携・協調による生産基盤の強化
<戦略2>	生産コストを考慮した適正な価格形成と販売力強化
<戦略3>	系統結集力の発揮による生産コスト削減
<戦略4>	環境調和型農業・スマート農業への対応

J A グループの <u>経営基盤の強化</u> に資する内容	
基本目標2	事業環境の変化に対応しうる経営基盤の構築（大綱共通）
基本戦略2	組合員のくらしを軸とした総合事業の展開（大綱共通）
<戦略5>	地域共生と豊かな暮らしの実現
<戦略6>	J A ・経済連の新たな一体的事業運営体制の構築

【J A 青果物広域パッキングセンターの事業運営体制】



<施設概要>

- ①所在地：袋井市堀越454番地の1
- ②建物規模：延床面積 約1,234.12㎡
- ③フロント能力：
 - （A）稼働時期 6 月（14 日）12 月～5 月
 - （B）処理量 日量9,800パック 年間最大130万パック

<期待される効果>

- ①パック詰め労力の軽減、栽培面積の拡大、担い手確保
- ②繁忙期の出荷量拡大及び鉄器収穫による品質向上
- ③品質の統一及び正確な事前出荷情報の発信
- ④多様な顧客ニーズに沿った出荷・販売及び直接販売の拡大
- ⑤大規模農家や農業法人等のビジネス経営体への系統共販出荷の支援強化

▲広域パッキングセンターの概要





▲県育成品種「春しずか」



▲安定販売とブランド確保



▲海外マーケットの販売強化



- ② 県域拠点としての強みを活かした抑制
- ① 県域間、JA間連携による資材規格の集約、共同仕入及び本会物流拠点を活用した包装資材等の価格抑制

〈戦略3〉系統結集力の発揮による生産コスト削減

1. 県域拠点施設の強みを活かした農業資材の安定供給と生産コストの削減
- ① 県域間、JA間連携による資材規格の集約、共同仕入及び本会物流拠点を活用した包装資材等の価格抑制
- ② 海外マーケットの需要や輸出先国の規制に対応した農産物づくりと現地プロモーションによる販売強化

4. 多様な販売チャネルによる県産農産物の販売拡大
- ① 手しお屋（JAタウン）におけるJAや農業生産法人との連携による商品開発と付加価値販売の実践
- ② 海外マーケットの需要や輸出先国の規制に対応した農産物づくりと現地プロモーションによる販売強化

- ③ 「畜産バイオセンター」「小笠食物センター」「駿府の肉処 静岡そだち」を拠点とした一貫体制による県産食肉の販売強化

- ② 「袋井精米工場」を拠点とした県民への米の安定供給と静岡県産米ブランドの維持・確保

- ① 「県外事務所」を拠点とした青果産地情報の提供、販売提案、販促活動により産地と実需者との関係強化

た安定販売とブランド確保

- ④ 菊川種子センターによる米種子の安定供給と「袋井連合農業倉庫」の運営を通じた、米のJA農業倉庫事業の補完
2. 新産地の形成による生産振興
- ① 夏野菜や花木、業務加工野菜の生産振興、茶の複合作物等の推進による新たな産地化
- ② 果樹の生産拡大に向けた茶から柑橘・落葉果樹への栽培品目の転換提案
- ③ 気候変動など環境変化に対応した茶の県育成品種「つゆひかり」、柑橘「春しずか」の生産技術の普及・導入対策の実施
3. JA・経済連一体となった最適な業務運営体制の構築
- ① JA営農経済事業におけるICT等を活用した業務システムの構築と物流事業の事業改善提案

- ② ドローン散布や草刈りなど農家労働を補完する新たな「農作業受託事業」の検討・構築
- ③ JA・経済連や販売・購買部門の垣根を超えた「大型農業生産法人」への推進方法、役割分担の構築と提案推進活動の実践
1. 取引先等との連携による販売強化と新規需要の創出
- ① パートナー市場や県行政等関係機関等との連携による生産コストの上昇を加味した販売価格の実現
- ② 県行政等と連携し(株)静岡茶市場の市場機能の改善を通じた新たな市場形成機能の構築と労務改善の実現

〈戦略2〉生産コストを考慮した適正な価格形成と販売力強化

- ③ JAGグループが協調・連携した「静岡茶」「静岡みかん」「静岡県産米」「静岡県産食肉」の県下統一消費宣伝（SNS、TVCM等）による新たな需要の創出
2. JA・経済連の生産指導から集荷・販売までの一貫体制の強みを活かした販売強化
- ① 指導から販売に通じた事業の強みを活かし、茶商要望に基づく茶種（有機茶、碾茶、かぶせ茶等）への生産転換と再生産可能な計画販売の実施
- ② 農業生産法人の販売支援サポートと実需マッチングによる直接販売の促進、取扱拡大
- ③ 多収穫米の集荷から販売まで一貫体制の強みを活かした契約栽培・買取集荷・直接販売の拡大
3. 県域拠点施設の強みを活かした



▲環境負荷低減資材の導入



▲国内地域資源の活用



1. 環境負荷軽減に資する資源及び

〈戦略4〉環境調和型農業・スマート農業への対応

- ① 大井川肥料工場への更なる系統結集による製造数量増加とメリット還元の実現
- ② 有機JASに対応した新たな肥料製造と拡販の実施
- ③ 大井川肥料工場や物流センターの県域拠点を活用した近距離物流の提案を通じた、最適な物流体制の構築による物流費の削減
- ④ 「菊川種子センター」による新たな米種子の製造と県内生産者・JAへの安定供給
- ⑤ 和牛の対外受精卵製造から子牛の買取り・販売までの一貫体制による素牛仕入コストの削減

3. 労力軽減や生産性向上に資する

売

成果物として「環境配慮米」の販売

- ① 環境負荷低減資材（バイオ炭等）や国内地域資源（鶏放題めぐる君・SKケイカル他）、天敵農薬などの資材提案と導入推進
- ② 環境配慮型農業や飼料高騰に対するコスト削減に資するため県内産稲わら等、新たな未利用資源の活用
- ③ 温室効果ガス削減に向けた「中干しの延長」「秋耕」の指導・実践と成果物として「環境配慮米」の販売



▲農作業の効率化・省力化提案



▲家族葬ホール（イメージ）

③ 家族葬専用ホールの設置とJAとの運営方法検討

再整備による運営改善

② JAグループガス販売所保安体制の

普及拡大

① 地域活性化や豊かな暮らしを提

供する生活資材の供給や生活宅配

事業（くらしの宅配便・旬鮮倶楽

部）の普及拡大

① 組合員・地域住民のくらしを支

える生活事業の充実による地域貢献

およびJA経営の安定化

およびJA経営の安定化

実現

〈戦略5〉地域共生と豊かな暮らしの

実現

① ICT等高性能機械（ドローン・

ザルビオ・ZIGIS等）の普及

と研修会開催による農作業の効率

化・省力化提案

農業機械等の活用



② JAグループLPGガスの供給継続

に向けたJAと経済連が一体と

なった事業体制の検討・構築

- ① 経済連の部門間連携による補完機能を発揮し、JA自己改革と収支改善の支援
- ② JA仕上げ茶加工事業の収支改善に向けJA間の受委託加工の推進
- ③ 多様化・高度化する担い手（農業法人等）の課題・要望に対応出来るJA営農経済事業における人材育成支援

① JA営農経済事業の新たな事業体制、仕組み・運営方法の構築による経営改善支援

花の都しずおかをPR 第40回静岡県花の展覧会

静岡県花卉園芸組合連合会（事務局：野菜花卉課）は2月28日、掛川市の掛川花鳥園で第40回静岡県花の展覧会審査会を開催しました。最高位の金賞1席（農林水産大臣賞・JA全農会長賞・日本農業新聞会長賞）には、JAしみずの杉山慎太郎さんがトルコギキョウ部門で出品した「ボヤージュアプリコット」が受賞しました。

展覧会では、県内の生産者から全8部門（カーネーション、きく、ばら、ガーベラ、トルコギキョウ、一般切花、鉢物、鉢物）に301点の出品がありました。県農林技術研究所の岩崎敏之所長が審査長を務め、県や市場などの関係者ら22人が花の形質



や商品性、茎葉のバランスなどの項目を審査しました。審査後は、展示と販売会も実施しました。主な金賞受賞者は表の通り。（敬称略、カッコ内は部門名、品種、JA名）。

賞	JA名・市町村名	氏名	部門名	品種名	特別賞	
金賞	1席	JAしみず	杉山 慎太郎	トルコギキョウ	ボヤージュアプリコット	農林水産大臣賞 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞 日本農業新聞会長賞
	2席	JA掛川市	大場 宏基	ばら	マンゴリーバ	農林水産省農産局長賞 静岡県農業協同組合中央会代表理事長賞 掛川市長賞
	3席	JAふじ伊豆	田村 俊宣	カーネーション	スノードロップ	静岡県知事賞 静岡県信用農業協同組合連合会理事長賞 静岡県第一テレビ社長賞
	4席	JAとびあ浜松	藤野 行宏	ガーベラ	ヴォルデモート	静岡県知事賞 全国共済農業協同組合連合会静岡県本部運営委員会会長賞
	5席	伊豆の国市	逸藤 美行	鉢物	ビジュマムカーネリアン	静岡県知事賞 静岡県鉢物生産振興会長賞
	6席	JAとびあ浜松	鈴木 鉄心	きく	ノースター	農林水産省関東農政局長賞 静岡県経済農業協同組合連合会理事長賞
	7席	JAふじ伊豆	木村 富男	一般切花（マガレット）	伊浜ホワイト	静岡県農林水産振興会長賞 静岡新聞・静岡放送社長賞
	8席	JAみっかび	縣 静枝	枝物	トキワガズミ	静岡県経済産業部長賞 日本花き生産協会会長賞



▲審査のようす▲



▲金賞1席
杉山さんのトルコギキョウ



▲ブーケを制作するフローリスト

バランタインに花を贈ろう フラワーバランタイン イベントを開催

県内の花き生産者やJA、行政、市場、生花店などで組織するフラワーバランタイン実行委員会は2月9日、バランタインに花を贈るPRイベントを、静岡市葵区の紺屋町名店街で開催しました。花き類の生産・流通販売の関係者らが連携し、バラやガーベラ、トルコギキョウなどの県産花きの展示や販売、県内生花店のフローリストによるブーケ作りのパフォーマンスなどのイベントを実施しました。

県産みかんの高品質生産のために 令和7年静岡県柑橘生産者大会

静岡県経済連柑橘委員会（事務局：柑橘果樹課）と静岡県柑橘振興基金協会は2月14日、静岡市駿河区のグランシップで「令和7年静岡県柑橘生産者大会」を開き、生産者ら約300人が参加しました。大会では、令和7年産柑橘重点実行方針の承認、柑橘品評会の表彰式、講演などを行いました。

重点実行方針では、「気候変動に適応した栽培に取り組み生産量・出荷量を確保

する」を最重要項目に掲げ、マルチ被覆による糖度上昇、着色促進や植物調整剤の使用による浮き



▲講演のようす



▲第59回貯蔵ミカン品評会で農林水産大臣賞を受賞した石倉健さん（JAふじ伊豆）

皮軽減対策などを徹底し、夏期の高温や秋期の集中豪雨などの厳しい気象条件に対応した生産に取り組みむことを示しました。

表彰式では、県貯蔵ミカン品評会と県中晩生柑橘品評会で上位入賞した8人と、田中柑橘研究奨励賞で本会技術コンサルタントの吉川公規さんが表彰されました。

報告事項では、県農林技術研究所の研究者らが県育成の新品種「春しずか」の特性や農薬情勢、病害虫防除などについて講演し、参加者は理解を深めました。



▲品評会上位入賞者

県産和栗を世界へ 和栗協議会発足式を開催

県産和栗の復活とブランド化を目指して官民が連携する「遠州・和栗プロジェクト」（本会事務局：西部みかん園芸課）は2月10日、一般財団法人「和栗協議会」への移行に先立ち、掛川市内で発足式を行いました。地元企業、周辺市町、JAなどの構成団体の関係者ら約230人が参加しました。



▲発足式に出席した関係者

同協議会は、名誉顧問に鈴木康友県知事、会長に久保田崇掛川市長、副会長に中野祐介浜松市長、理事長に鈴木滋彦県立農林環境専門職大学長が就任します。

令和4年に発足した同プロジェクトは、現在40以上の団体が参画。5つの部会で商品開発や広報活動、生産拡大の支援など各参画団体の強みを活かした取り組みを展開しています。今後の発展を見据え、より公的な基盤に基づいた推進や透明性と信頼性を確保するため、一般財団法人の協議会として新たなスタートを切りました。

和栗プロジェクトは今後、「地域共創」をキーワードに結束し、世界へ和栗の価値を届けていきます。



▲生産部会の取組を報告する本会西部みかん園芸課 藤川俊朝担当

県産農産物の高品質生産へ 高温対策栽培技術講演会を開催

肥料農業課は2月18日、静岡市駿河区の県農業会館で高温対策栽培技術講演会を開き、県内JAの営農担当職員ら約100人が参加しました。

講演会は、猛暑による農作物の高温障害の対策として土づくりや施肥方法などの技術を学び、品質や収量の向上につなげるのが目的。開発肥料株式会社の中谷潤技術顧問が講師を務め、水稲や園芸作物の高温障害対策と土づくりについて講演しました。

水稲では、登熟不良による品質・食味の低下を課題に挙げ、ケイ酸質資材の継続的な施用や作土確保のため深耕を行うことなどを対策に掲げました。園芸作物では、発芽率の低下、生育不揃い、着果不良、高温性病害などを高温障害の事例に挙げ、被覆



▲挨拶する山下昌徳常務

資材や遮光資材を使用した育苗期の温度上昇抑制や灌水の管理、ハウス内の適切な環境制御などの対策を徹底することが重要と説明されました。また、高温耐性品種についても紹介がありました。

同課の担当者は「今回の講演会が農作物栽培の高温対策に役立ち、生産者の所得向上につながることを期待している」と話しました。



▲講演の様子

令和6年産米食味ランキング発表 本県産「にこまる」、「きぬむすめ」が「特A」を獲得

日本穀物検定協会は2月28日、令和6年産米の食味ランキングを発表しました。

各道府県から選出された143産地品種のうち最高位の「特A」評価を獲得したのは39産地品種で、本県からは西部地区の「にこまる」が7年連続、東部地区の「きぬむすめ」が2年連続の「特A」評価獲得となりました。



県産米の流通体制強化へ

第5回静岡県産米麦流通連絡協議会および共同計算運営委員会を開催

食糧課は3月12日、県農業会館で第5回県産米麦流通連絡協議会と共同計算運営委員会を開き、県内JAの代表者ら15人が参加しました。

会議では、令和6年産米の集荷販売状況や政府備蓄米放出への対応などが報告されました。協議事項では、令和7年産米の共同計算や生産・集荷・販売に係る基本方針を示したほか、令和7年度に実施する県産米の消費宣伝案などを検討しました。



既設イノシシ用電気柵を活用した シカにも有効な侵入防止柵

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所
森林・林業研究センター森林育成科
上席研究員

神谷 健太

一 はじめに

近年、県内有数のみかん産地である旧三ヶ日町（以下三ヶ日町）ではここ数年の間にシカに温州みかんの成木や苗木の葉が食べられる被害（図1）が報告されるようになりました。三ヶ日町ではこれまでにイノシシ対策として電気柵等を設置してきましたが、シカはイノシシに比べ脚が長く跳躍力にも優れるためイノシシ用の電気柵に追加の対策が必要と考えられました。そこで既存の電気柵を活用して、シカにも有効で低コストな侵入防止柵を考案しましたので紹介します。



図1 シカに食害されたみかん苗木

二 シカ・イノシシ併用の侵入防止柵

既設のイノシシ用の電気柵は、地面から高さ20 cm間隔で2段の電線が設置されています。つまり柵の高さとしては40 cmとなるため、シカは簡単に跨いでしまい、電気柵としての効果は期待出来ません。電気柵は目線の高さに見慣れない電線を設置することで鼻で不審な物を探る探查行動を利用して鼻を触れさせ感電させ、痛みを学習させる心理柵です。この仕組みはシカについても有効です。いったんは柵の下から潜り込もうとしたシカは潜り込めないことを悟った後に、別の侵入口として柵の上を跨いだり跳び越えようとしています。そこで跳び越えを防ぐために、電気柵の背面（内側）に防風ネットを設置し、跳び越えられない高さを確保します。既存の電気柵と防風ネットの2つにより潜り込みと跳び越えを防げるシカ・イノシシ併用の侵入防止柵の開発を目標にしました。

三 シカが跳び越えない高さの検討

餌を食べるためにシカが実際どの程度の高さまで柵を跳び越えるのか調査し、電気柵の背面に設置する防風ネットの高さを検討しました。調査は令和5年11月と令和6年4月まで浜松市天竜区の山林内で行ない、調査開始から約一か月週3日程度アルファルファヘイキューブ（プロック状の乾燥牧草）を撒きシカを餌付けさせました。餌付いた後に餌場の周囲に約5メートル四方の高さ70 cmの柵を設置して給餌を続けました。柵の周囲には自動撮影カメラを設置してシカが柵内へ侵入する様子を確認しながら柵の高さを上げていき、シカが跳び越えられる柵の高さを検証しました。その結果、高さ130 cmまでは跳び越えるシカが多くいましたが150 cmの柵を跳び越えるシカはいませんでした。シカが柵を跳び越える際の行動を確認すると、助走をつけて跳び越えるのではなく、周囲を探した後ほとんど静止した状

態またはゆっくり歩きながら柵の直前で跳び越えていました。また130 cmの柵を跳び越えたシカの多くは後ろ足が着地の前に柵に接触していました（図2）。これまでにシカが180 cmの金網柵を跳び越えた事例もありますが、そのような場合、犬に追われるなどによりやむを得ず跳び越えており、跳び越える行動より柵の編み目を押し広げて逃げる個体が最も多かったと報告されています。これは柵を跳び越えることは足



図2 柵を跳び越えた後に足を取られるシカ

を痛める可能性が高く、自らを危険に晒すためと考えられます。そのためコストを考慮すると150cmの柵高が適切であると考えました。

四 現地での実証

令和6年3月～12月に考案したシカ・イノシシ併用の侵入防止柵を三ヶ日町の被害地に設置して実証試験を行いました。侵入防止柵は三ヶ日町大谷の2地区の温州みかん苗木圃場の既設の電気柵の背面に、150cmの防風ネットを設置して柵の仕様を改良しました(図3)。そして柵内と柵外に苗木を植えて被害状況を調査することで効果を検証しました。また柵の周囲には自動撮影カメラを設置し、出没する野生動物を撮影しました。その結果、周囲にはシカその他、ハクビシン等の中型獣類が出没しておりましたが、シカの柵内への侵入はありませんでした。また柵内と柵外の苗木の被害の有無を目視で確認したところ柵外の苗木は食害されましたが柵内の苗木の被害はなく、被害を防止する効果が確認できました。

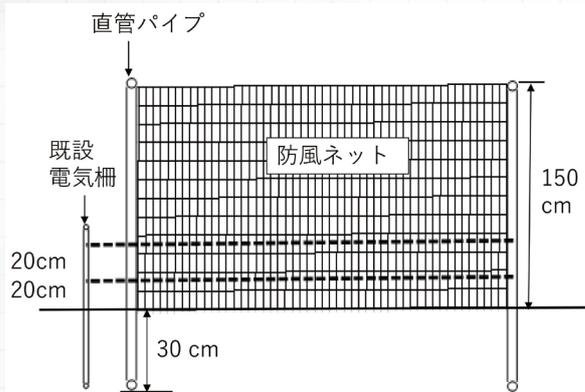


図3 三ヶ日町に設置されたシカ・イノシシ併用侵入防止柵

五 設置に掛かるコストの比較

みかん圃場におけるシカ用の侵入防止柵はワイヤーメッシュ柵と電気柵が主流ですが、それらの柵をシカにも有効な高さで設置した場合と新たに考案した柵で設置に掛かるコストを比較してみました。比較は資材費と設置に掛かる人件費を柵の設置の研修会等の情報から算出しました。その結果、資材費及び人件費においてシカ・イノシシ併用の侵入防止柵が他の柵に比べ最も低くなるという結果でした(図4)。

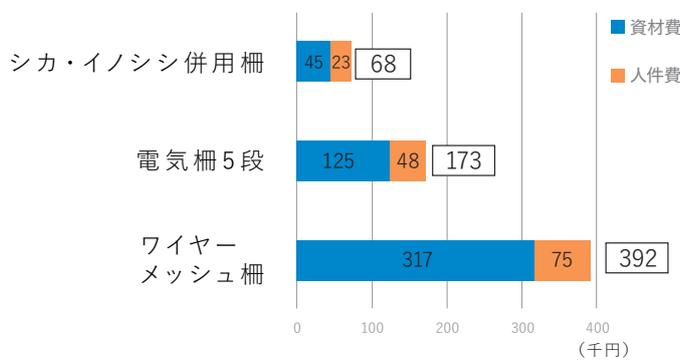


図4 10aあたりの各種柵の設置コスト比較

六 おわりに

三ヶ日町は、これまでの調査でシカの生息密度が県内東部地域等と比較して高くないことが分かっており、定着初期段階の地域であると考えられます。今後は、県内の生息密度の高い地域でシカ・イノシシ併用侵入防止柵の効果を検証していきたいと考えております。

三ヶ日町ではこれまでイノシシの捕獲を主に実施してきましたが、シカ被害の増加からシカの捕獲も始まりました。被害対策は加害動物から柵などで守った上で捕獲を合わせて実施すると非常に効果が高いと言われております。当センターでは、今回考案した柵についても講習会等で普及を図り、侵入防止柵と捕獲の両輪を推し進め、更なる被害軽減に努めていきたいと考えております。

浜松市浜名区根堅2542-8
 静岡県農林技術研究所
 森林・林業研究センター
 Mail: forest-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp
 TEL: 0533-5831-3160

静岡県農業振興基金協会からご案内

(公財) 静岡県農業振興基金協会は、本県の農業振興・農村活性化を図ることを目的に担い手育成、農業振興、農村振興等に
取り組む農業者等の組織（2名以上）に対し、活動経費の1/2以内（限度額有）を助成します。各事業について以下のとおり
ご紹介します。

(1) 担い手育成対策事業（助成率2分の1以内）

事業名	事業内容	事業主体
①農業者経営能力等向上事業	経営、技術向上を図る講座、研修、研究活動等の担い手育成活動	農業者等組織、JA
②担い手等広域交流促進事業	担い手組織が行う東・中・西部に渡る研究会や情報交換会	担い手組織
③生きがい農業応援事業	自給、ファーマーズマーケット出荷を目指す初心者への基礎研修	JA
④女性活動、男女共同参画推進事業	女性の活動及び社会・経営参画を行う女性組織やJA女性部等の活動	農業者等組織、JA

(2) 地域農業振興対策事業（助成率2分の1以内、⑥独自開発は10分の10以内）

事業名	事業内容	事業主体
①農産物マーケティング推進事業	市場調査、新商品開発、ブランド化、販売促進、地産地消、輸出拡大等の活動	農業者等組織、JA
②農業生産研究事業	生産技術、新作目、燃油・肥料・資材高騰対策技術等の研究・実証	農業者等組織、JA
③安全安心な生産基盤づくり事業	IPM、GAP等取得、残留農薬分析、SDGs、みどりの食料システム戦略等の活動	農業者等組織、JA
④農作物鳥獣害対策事業	鳥獣害防止や駆除の研修会・講演会 デジタル技術などを用いた鳥獣被害対策技術の現地実証	農業者等組織、 市民団体、JA
⑤農地集積、 耕作放棄地活用推進事業	農地集積の合意形成や、耕作放棄地の再生を行う活動	農業者等組織、 市民団体、JA
⑥農業新技術研究・導入促進事業	新技術等の研究・導入に取り組む事業 (※独自開発は助成率10/10以内も可)	農業者等組織、 農業後継者の組織 (学生等) JA
ア 新商品開発販売研究事業	新商品開発、試験販売、新流通システムの確立研究	
イ 農業新技術開発普及事業	新技術開発研究、普及のための現地実証	
ウ 優良種苗供給事業	新品種や優良種苗の生産供給体制の整備、新品種の育成	

(3) 農村振興対策事業（助成率2分の1以内）

事業名	事業内容	事業主体
①地域特産づくり推進事業	新たな農林産物の導入、特産品開発、販売促進活動	農業者等組織
②グリーン・ツーリズム推進事業	景観、伝統文化、体験施設、地域資源を活用して取り組むグリーン・ツーリズム活動	農業者等組織
③食農教育支援事業	消費者や児童・生徒への農業体験、調理加工体験、学校との食農教育活動	農業者等組織、 市民団体、JA
④直売所等開設支援事業	農産物の地域内流通、直売所・店舗・朝市等の開設及び開設翌年度の運営活動	農業者等組織

(4) 日程

各事業は4月1日から実施可能ですが、助成を活用するには申請が必要です。5月下旬の事前審査会を経て、6月末が申請書の締切となっています。助成事業の申請については、静岡県農業振興基金協会事務局までお問い合わせください。

事務局

公益社団法人 静岡県農業振興基金協会

〒422-8619 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号

電話：054-284-9545 FAX：054-284-6001 E-mail：kikin@chu.ja-shizuoka.or.jp

ホームページ：農業振興基金協会 (<http://group.ja-shizuoka.or.jp/about/jamap/kikin>)

令和7年3月31日付

定年・選択定年退職者のご紹介

このたび、令和7年3月31日をもって定年退職を迎えられた方々に、石川和弘代表理事理事長より本会を代表して感謝状を贈りました。ここに10人の方々をご紹介申し上げます。長い間本会を支えていただき誠にありがとうございました。末永くご多幸をお祈り申し上げます。



後列目左より

山下 昌徳
(常務理事)

石川 和弘
(代表理事理事長)

橋本 宏生

立石 宏美

鎌野 厚
(代表理事専務)

藤野 勉
(常務理事)

市川 敬弘
(常勤監事)

前列目左より

野末 賢治

松井 友紀

山本 明典

柴山 和也

近藤 功

木下 成幸

坂口 真澄

駒井 久也

テレビ番組

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：くらし支援部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局：食糧課)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。3月15日の放送をもって令和6年度の全11回の放送が終了しました。

3月の放送では、お笑い芸人のモグライダーが藤枝市と焼津市から「金芽米」を紹介しました。ビデオメッセージで出演したJA大井川の生産者、村松哲彦さんは「金芽米は、JA大井川管内のきぬむすめを使用した粒がしっかりふっくらとした見た目が特徴の美味しいお米です。ぜひ食べてみてください」と話し、PRしました。



JAおおいがわ高付加価値米研究会
会長 村松 哲彦さん

令和6年度「しずおかごはんが食べたい！」で紹介した県産米

放送回	放送日	市町	米名称	米産地
# 1	5月18日	熱海市・伊豆市	きぬむすめ	JAふじ伊豆
# 2	6月15日	富士市・富士宮市	きぬむすめ	JAふじ伊豆
# 3	7月20日	浜松市	にこまる	JAとびあ浜松
# 4	8月17日	磐田市・袋井市	にこまる	JA遠州中央
# 5	9月21日	島田市・吉田町	静岡こしひかり	JAハイナン
# 6	10月19日	静岡市	静岡こしひかり	JA静岡市
# 7	11月16日	御殿場市	このはなの恵み	JAふじ伊豆
# 8	12月21日	御前崎市・牧之原市	夢咲こしひかり	JA遠州夢咲
# 9	1月18日	掛川市・菊川市	掛川こしひかり	JA掛川市
#10	2月15日	三島市・沼津市	するがの極	JAふじ伊豆
#11	3月15日	藤枝市・焼津市	金芽米	JA大井川

特A評価獲得!

一般財団法人 日本穀物検定協会
令和6年産米食味ランキング*



静岡で育まれたおいしいお米。



静岡県産 **にこまる**
(西部地区)

静岡県産 **きぬむすめ**
(東部地区)

もちもちとした食感と強い粘りが特徴のお米です。
ふっくらとした炊き上がりのお米はあっさりとした味わいで噛むことで味わいが増します。
思わず笑顔がこぼれる美味しさです。

キヌヒカリの娘である きぬむすめ。
食味はコシヒカリに劣らず、外観・味共に優れています。
また、炊きあがりの白さとツヤが素晴らしいお米です。

*商品そのものの評価ではございません

静岡県産米麦流通連絡協議会 県下JA・JA静岡経済連

担当：くらし支援部 食糧課 (TEL：054-284-9737)

毎月1回発行 編集発行/企画 管理課 〒422-8620 静岡県経済農業協同組合
TEL.054(284)9708 FAX.054(284)9780 http://shizuoka-keizairen.net E-mail:keizairen@kei.ja-shizuoka.or.jp
連合会 静岡県静岡市駿河区曲金3丁目8番1号

